

---

# ナイトメアハンターズ

春風雨雲

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナイトメアハンターズ

### 【NZコード】

N7461F

### 【作者名】

春風雨雲

### 【あらすじ】

「まつながゆう  
松永修は」く普通の高校生。だが、彼はまだ知らない。これから起ころる事を。

## プロローグ

俺の名前は松永<sup>まつなが</sup>修<sup>しゅう</sup>。「」く普通の高校2年生……だと思つていた。

そつ、あの日……

2009年、夏。蒸し暑い日差しが街を照らし、温かい風は肌をすり抜ける。

「そここの君、ちょっと道を教えてくれないかな??」

メガネをかけた背の高い老人がそこに居た。

夏休みの初め、俺は海の見える祖母の家に身を寄せていた。

「え? もくのこと??」

その時俺はまだ10歳の子供だった。

「ああ、鳴海堂つて言つただけど、知つてるかな?」

夏なのटटへ来て「」ート。明らかに不自然だった。

「なるみどう?」

たしか鳴海堂とは近所にある古本屋の「」とある。

「古じい形で神社の隣にあるつて言つ話しなんだけど。」

夏の暑い日。老人を古本屋に案内する。それだけのはずだった。

「知つてるよ。案内してあげるよ。」

それから記憶は無い。

蒸し暑い夏。そして、始まりの夏。

そして2010年、冬。

「君、名前は？？？」

赤いランプが白い壁を照らし革のニオイの漂つ車内、気が付くと俺は警察のパトカーの中に居た。

「君、名前は？？？」

約5ヶ月、どこで何をしていたのか、何を食べ、どうやって生きていたのか分からぬ。

「まつなが しゃうです。」

だがその時のことだけすっぽつと抜け落ちている。

そう、俺は誘拐されてしまっていたんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7461f/>

---

ナイトメアハンターズ

2010年11月18日14時21分発行